

黄在南教授への献辞

総合管理学部長 宮園 博光

黄在南教授は、韓国釜山市のご出身で、韓国国立釜山大学校商科大学経営学科をご卒業後、九州大学大学院経済学研究科で研究生として学び、その後修士課程、博士課程を修了されました。1993年には博士（経済学）の学位を取得し、研究者としての基盤を築かれました。その後、1994年の総合管理学部創設時に熊本県立大学に着任され、専任講師、准教授を経て教授として長年大学に貢献されてきました。

黄教授の研究は、経営学および組織論において多くの重要な知見を提供してきました。「組織変動」「組織学習」「国際合弁事業」など、経営学の中核テーマに関する研究は、国内外で高い評価を得ています。特に、韓国における日韓合弁事業に関する実証研究や、組織変動における理論的枠組みの提示などは、経営学や組織論の発展に寄与しました。数多くの著書、論文、学会発表を通じて、理論と実践の橋渡しを目指す姿勢は多くの研究者に影響を与えました。また、経営戦略や組織学習に関する研究は、現代の経営環境の変化に対応する組織設計の指針を示し、実務家にとっても有益な示唆を与えています。

黄教授は、教育者としての活動を通じて、多くの学生や研究者を育成されました。特に、大学院生に対する個別指導や教育プログラムの設計に力を入れられ、その指導力の高さは多くの卒業生・修了生から感謝されています。また、「地域に学ぶ企業に学ぶ」と題された教育用図書の編集と総括を担当されるなど、地域社会との連携を重視した教育を実現されました。こうした取り組みは、単に学問を伝えるだけでなく、学生が地域や実社会で活躍できる力を養うことを目指しており、大学の教育理念に大きく寄与しました。

黄教授は、学内業務にも積極的に取り組まれました。ビジネスコース長としてカリキュラム改革や教育体制の整備を推進し、研究科長として大学院教育の質の向上に貢献されました。また、学部長としては学部全体の運営を指揮し、常に真摯に教育環境の整備や新たな取り組みの実現に尽力されました。さらに、ビジネス部門長として、学部内外の協力体制を強化し、地域社会との連携や研究活動の活性化を図られました。これらの取り組みは、熊本県立大学の発展に欠かせないものであり、学内外の多くの関係者に影響を与えました。

黄教授は、学内での活動にとどまらず、地域社会においても積極的に貢献されました。大津町振興総合計画策定審議会長や教育委員会外部評価委員会会長など、地域の発展に寄与する多くの役職を歴任されました。これらの活動を通じて、学問的な知見を地域社会に還元し、地域住民の生活向上や持続可能な発展に寄与されました。また、研究と地域活動を融合させることで、実践的な知識の普及と社会課題の解決に尽力されました。

黄教授のご経歴と業績は、学術界においても地域社会においても極めて重要であり、その貢献は多岐にわたります。これらの取り組みを振り返る中で、私たちは黄教授の情熱と尽力に改めて

敬意を表します。黄教授のさらなるご発展と、これまでのご功績が次世代へ引き継がれることを心よりお祈り申し上げます。

最後になりますが、31年という長い間、本学の教育と学部の発展に多大なご尽力をいただいた黄在南教授に、学部を代表して感謝の意を表しますとともに、ご退職後のご健勝とさらなるご活躍を心より祈念いたします。黄教授、本当にお世話になりました。そして、心からの感謝と敬意を込めて、お疲れさまでした。